

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 28 年度 第 4 回理事会

開催日時 平成 28 年 9 月 30 日（金）
15 時 00 分から 18 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 3 号館 320 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)

平成 28 年度第 4 回理事会議事次第

1. 開　　会

議事内容

2. 審議事項

- 第 1 号議案 新入会員承認の件
- 第 2 号議案 委員会委員の承認の件
- 第 3 号議案 法人運営基本規則改定の件
- 第 4 号議案 『次期高等学校学習指導要領による「地学基礎」の内容精選化の提言』について
- 第 5 号議案 「団体社員の体制および規則」について
- 第 6 号議案 大規模アンケート協力学会取り扱いに関する内規のメール審議依頼について
- 第 7 号議案 その他

3. 報告事項

- 1. 川幡代表理事職務報告
- 2. 田近理事（広報担当）職務報告
- 3. 中村正人理事（顕彰担当）職務報告
- 4. 古村理事（総務担当）職務報告
- 5. 北理事（財務担当）職務報告
- 6. 川幡理事・倉本理事（ジャーナル担当）職務報告
- 7. 木村理事（グローバル戦略担当）職務報告
- 8. 浜野理事（大会運営担当）職務報告
- 9. 教育検討委員会活動報告
- 10. 地学オリンピック開催報告
- 11. セクション活動報告
- 12. その他

4. 閉　　会

(資料)

前回議事録

	平成 28 年度第 3 回理事会議事録 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	P. 1-7
--	---	--------

審議事項

第 1 号議案 新入会員承認	P.8-9
第 2 号議案 委員会委員の承認の件	P.10-15
第 3 号議案 法人運営基本規則改定の件	P.16
第 4 号議案 『次期高等学校学習指導要領による「地学基礎」の内容精選化の提言』について	別添
第 5 号議案 「団体社員の体制および規則」について	P.17-24
第 6 号議案 大規模アンケート協力学会取り扱いに関する内規のメール審議依頼 について	P.25-26
第 7 号議案 その他	

報告事項

1. 川幡代表理事職務報告	P.27-28
2. 田近理事(広報担当)職務報告	P.29
3. 中村正人理事(顕彰担当)職務報告	P.30-33
4. 古村理事(総務担当)職務報告	
5. 北理事(財務担当)職務報告	別添
6. 川幡理事・倉本理事(ジャーナル担当)職務報告	P.34-45
7. 木村理事(グローバル戦略担当)職務報告	P.46
8. 浜野理事(大会運営担当)職務報告	P.47
9. 地学オリンピック開催報告	P.48
10. その他	P.49-51

その他の資料

	規則 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	別添
--	--	----

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 28 年度第 3 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 28 年 7 月 14 日 (木)

15 時 00 分から 18 時 30 分

2. 開催場所 東京大学理学部 3 号館 3 階 320 号室

(東京都文京区本郷 7-3-1)

3. 出席者 理事数 20 名

出席理事 16 名 (定足数 11 名 会議成立)

出席監事 2 名

オブザーバー 10 名

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員

理事 川幡 穂高

理事 津田 敏隆

理事 田近 英一

理事 古村 孝志

理事 井出 哲

理事 小口 高

理事 小口 千明

理事 奥村 晃史

理事 木村 学

理事 倉本 圭

理事 中村 昭子

理事 西 弘嗣

理事 浜野 洋三

理事 原田 尚美

理事 日比谷 紀之

理事 道林 克禎

監事 北里 洋

監事 氷見山 幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 高橋 幸弘
宇宙惑星科学セクションバイスプレジデント 関 華奈子
大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬
大気水圏科学セクションバイスプレジデント 佐藤 薫
地球人間圏科学セクションプレジデント 春山 成子
固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治
固体地球科学セクションバイスプレジデント 田中 聰
地球生命科学セクションプレジデント 遠藤 一佳
学協会長会議議長 坂本 尚義
2017年大会国内準備タスクフォース議長 末廣 潔

午後 15 時 00 分、理事の定数に足る出席があったので、会長川幡穂高は議長席に着き、理事会が成立することを宣言した。インターネット電話 Skype を利用し、遠隔地から参加する倉本圭理事、中村昭子理事（報告 8. (1-3) 以降に出席）、高橋幸弘セクションプレジデントが審議に確実に参加できることを互いに確認した。

今期最初の理事会であった前回理事会では、時間の都合上自己紹介を行えなかつたので、あらためて今回、議事に先立ち出席者の自己紹介を行なつた。

【前回議事録確認】

第 1 回理事会、定時社員総会、第 2 回理事会議事録について、確認し、了承された。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件（古村孝志理事）

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 2 号議案 賛助会員入会承認の件（古村孝志理事）

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 3 号議案 委員会委員の承認の件（古村孝志理事）

環境災害対応委員会、広報普及委員会、情報システム委員会、大会運営委員会、ダイバーシティ推進委員会の新委員を資料の通り承認した。

第 4 号議案 男女共同参画学協会連絡会の第 4 回大規模アンケート承認の件

小口千明理事より、連合の会員を対象に男女共同参画学協会連絡会の第4回大規模アンケートを行う件について説明があった。webページに載せるなど、アンケートをとることが承認された。

第5号議案 若手科学者ネットワークへの参加承認の件

小口千明理事より、日本学術会議の若手アカデミーの概要について紹介があり、参加することが承認された。

当該ネットワークにおいては「若手」という用語の定義は45歳以下とされている。研究者の多様なキャリアを包含できるような検討を提案してほしいとの議論があった。

第6号議案 ORCID利用の経費について

小口高理事より2016年度よりORCIDのBasic Membership(年間4,000米ドル)に加入することについて説明があり、承認された。

第7号議案 地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会への会員登録について

古村総務担当理事より、地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会への会員登録に関して説明があり、承認された。連合からの出席担当者については代表クラスの出席が必要かどうか古村理事から当協議会へ確認の上、今後、関係の近いセクション、委員会等の中から検討し適任者を決めることとした。

8. 報告事項

(1) 川幡穂高代表理事職務報告

(1-1) 新会長から連合理事担当委員会一覧をもとに新担当の紹介があった。環境災害対応委員会の奥村晃史担当理事より、同委員会で未定の副担当理事を井出哲理事にお願いしたいとの意向が伝えられ、了承された。

また、グローバル戦略委員会の副委員長としてウォリスサイモン理事に決定された旨、報告があった。

(1-2) 大会参加者トラブル防止策について

木村理事より2016年大会「International Mixer luncheon」でのトラブルの経緯の説明があり今後の対応が議論された。

対応する段階としては、①登録以前、②会場での入場、③会場内での3段階があるものの、①、②の段階で対応するのは難しく、③のケースについて、2017年大会までに対策を慎重に検討し、トラブル対応へのマニュアルを作成することとした。

(1-3) 連合からもブースの出展をしていた Goldschmidt conference について以下の内容で報告された。

6月26日～7月1日の日程で、パシフィコ横浜を会場に開催されたゴールドシュミット会議2016では、30を超える国内外の組織より共催、後援、協賛の枠組みで、ご支援とご協力をいただき、感謝している旨の手紙が日本地球化学会本会長とLOC代表(ゴールドシュミット会議2016組織委員会)益田会長から近日中に届くことが川幡会長より報告された(後日、7月25日に受け取り)。内容としては、ゴールドシュミット会議は、米国とヨーロッパの地球化学会が毎年開催しているものであるが、米国からの日本地球化学会への要請により開催が決定され、LOCが組織され3年間にわたり、隔月のLOCの会議をこなし、準備を経て開催された。69カ国より、4千人の参加者(ゴールドシュミット会議の歴代2番目の参加者数)があり、科学発表のレベルも高く、学術講演会も最終日まで活発な議論がなされた、なお、JpGUの職員も大会を見学し、来年のAGUの共同開催も含めて大会運営の一層の質の向上を目指す予定である。

(2) 田近英一理事(広報担当) 職務報告

田近理事より、2016年大会でのNASAハイパーウォールを用いて平日に開催されたアウトリーチ活動について説明があり、来年度以降も、JpGUとしてNASAの活動に協力すること、具体的には広報普及委員会が担当することが報告された。

(3) 中村正人理事(顕彰担当) 職務報告(中村昭子理事代理報告)(道林先生もご確認お願いします。)

中村昭子理事より、学生優秀発表賞受賞者発表について報告があった。
受賞者への通知の際に、来年度の大会において「International Mixer luncheon」に受賞者を招待する旨を通知することとなった。通知文については、グローバル委員会で承認されたものを原則として用いる。

道林理事より「固体地球科学セクションボードの審査員側から、学生賞の審査希望者数が多くなり、審査が年々負担になっている。」との現状報告があった。

朝日新聞社より朝日賞の推薦依頼があったことが報告された。この件については連合のメールニュース等にて案内し、会員から広く募ることとした。

(4) 古村孝志理事(総務担当) 職務報告

(4-1) 前回理事会以降に連合が承認した協賛・後援、発行したサポートレターについて報告があった。氷見山監事より、連合の共催・協賛・後援活動について、より一層活用していく(広く知っていただく)ことが良いのではないかという意見があり、この件については、次

回、学協会長会議および定時社員総会で連合の活動の一つとして伝えることが確認された。

(4-2) 前回理事会で承認され津田会長名義で発出した、文部科学大臣宛の京大火山研究センターの支援依頼文書について、発出後、支援されることが決まったとの報告があった。

(4-3) 三宅賞の JpGU への移行について情報交換および検討開始の報告があり、蒲生俊敬大気水圏科学セクションプレジデントも含めて肯定的な意見が表明された。連絡会を設置し、基本的に西田賞の規則を参考に準備していくことが了承された。委員会は、JpGU 側より 4 名程度（川幡穂高会長、古村孝志理事、西弘嗣理事、中村昭子理事）、地球化学研究協会より 4 名程度で構成される予定である。

(4-4) 学術会議理工学連絡会議

6月に開催された、第 6 回理学、工学系学協会連絡協議会の報告があった。

(5) 北和之理事報告（財務担当）職務報告（井出哲理事代理報告）

井出理事より 2016 年大会収支についての説明があり、2016 年大会期間中に募集した熊本震災支援金について 246,734 円が集まり、これを熊本県の支援金口座に送付した旨、報告があった。

(6) 川幡理事・倉本理事（ジャーナル担当）職務報告

倉本理事より、論文投稿・出版状況の報告、H28 年 5 月 22 日に開催された、第 5 回ジャーナル編集委員会の報告、H28 年 6 月 13 日に開催された第 2 回編集長会議開催について報告があった。

川幡理事より Thomson Reuter への登録の件、および総論（Review article）の促進に関する会員への一斉メールについて報告があった。

(7) 木村学理事（グローバル戦略担当）職務報告

前回理事会以降の活動状況と活動方針の報告があった。

木村理事より、連合の mission statement（連合の目指すもの）の見直しについて提案があった。現行の文章と改定案の文章が提示されたが、内容については今後、Facebook 等を通じてオープンな議論をし、次期理事会が開催される 9 月下旬までに議論し、詰めた案を準備することとなった。また、学会も含めた海外の組織との交流などの促進を検討する WG を設置することとなった。

(8) 浜野洋三理事（大会運営担当）職務報告

2016年大会についてセッション数、参加者数、団体展示、書籍出版などの出展数について報告された。

これまでの参加者数の推移が説明され、2017年大会においては投稿数5000件を目標にする。

2017年大会はJpGU-AGU Joint MeetingとしてAGUとの共同開催となり、千葉県幕張メッセにて、2017年5月20日（土）～25（木）、2016年大会より1日長い6日間開催され、会場の規模も大きくなることが報告された。

（9）教育検討委員会活動報告

西弘嗣理事より、教育検討委員会の活動について報告があった。

教育検討委員会の委員長は畠山氏に決定したことが報告された。

5月22日（日）に開催された教育検討委員会の報告があり、次期高等学校学習指導要領での地学に関する科目の内容について高等学校「理科」の基礎が付された全4科目必須化に関する提言を9月までにまとめたいので、8月中にJpGUが考える内容に関する提言を出ししたい旨を確認した。

また、AGIとのイベントを教育検討委員会とグローバル委員会で開催することが検討されているとの報告があった。

また、今期には大学および大学院教育についても、さらに議論が進むよう期待が表明された。

（10）ダイバーシティ推進委員会活動報告

小口千明理事より、平成28年度「女子中高生夏の学校 2016～科学・技術・人との出会い～（夏学）」共催について、申請内容の説明があった。

（11）情報システム委員会活動報告

第6号議案で審議した通り、ORCID導入についての検討状況報告があった。

（12）JpGU2017年大会準備タスクフォース報告

末廣TF主査より、前々回第1回理事会以降の活動状況と活動方針について報告があった。2017年のAGUとのJoint Meetingへ向けて今月AGU担当者と打合せを行う予定である。その際に、AGUとJpGUとの学生賞の規則の違い等を含め2017年にどのように共催するかをすり合わせる予定との報告があった。

議長は以上をもってすべてすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。（18時35分）

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。（捺印欄配布時省略）

平成28年7月14日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第3回理事会

出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	井出	哲	印
出席理事	小口	高	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	中村	昭子	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	原田	尚美	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	道林	克禎	印
出席監事	北里	洋	印
出席監事	氷見山	幸夫	印

平成 28 年 7 月～平成 28 年 8 月度 入会会員

個人情報の為非公開とする

平成28年度会員数推移

正会員			準会員			大会員			AGU会員		
入会	変更(+)	退会(-)	削除(-)	喪失(-)	変更(-)	入会	変更(-)	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会
3月末						8021				418	
4月	107	31	3	5	8151	32	31	2	417	90	1061
5月	255	31	1	2	8434	233	31	4	615	362	1151
6月	4					7761	3			618	0
7月	5		2			7664	1			619	0
8月	1		3	4		7658	0			617	
9月						7658				617	
10月						7658				617	
11月						7658				617	
12月						7658				617	
1月						7658				617	
2月						7658				617	
3月						7658				617	
	372	62	9	776	12	269	62	2	0	6	452
											0
											54
											0
											0

2016/8/31
正会員
7658名

准会員
617名
大会員
5名
AGU会員
266名

変更
准会員から正会員へ

正会員			準会員			大会員			AGU会員		
入会	変更(+)	退会(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)
3月末			8021					418			
4月	107	31	8151					417	90	1061	212
5月	255	31	8434					615	362	1151	224
6月	4		7761	3				618	0	1513	257
7月	5		7664	1				619	0	1513	0
8月	1		7658	0				617		1508	5
9月			7658					617		5	5
10月			7658					617		5	5
11月			7658					617		5	5
12月			7658					617		5	5
1月			7658					617		5	5
2月			7658					617		5	5
3月			7658					617		5	5
											266

正会員			準会員			大会員			AGU会員		
入会	変更(+)	退会(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)
3月末			9712					9712			
4月			9943					9943			
5月			10819					10819			
6月			10049					10049			
7月			10057					10057			
8月			8546					8546			
9月			名					名			
10月			名					名			
11月			名					名			
12月			名					名			
1月			名					名			
2月			名					名			
3月			名					名			
											266

ジャーナル編集委員名簿

編集委員会

No.	役職		氏名	所属
1	総編集長		井龍 康文	東北大学大学院理学研究科地学専攻
2	セクション編集長	宇宙惑星科学	倉本 圭	北海道大学大学院理学院宇宙理学専攻
3	セクション編集長	大気水圏科学	佐藤 正樹	東京大学大気海洋研究所
4	セクション編集長	地球人間圏科学	松本 淳	首都大学東京大学院都市環境科学研究科
5	セクション編集長	固体地球科学	吉岡 祥一	神戸大学 都市安全研究センター
6	セクション編集長	地球生命科学	川幡 穂高	東京大学大気海洋研究所
7	セクション編集長	横断的分野	多田 隆治	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
8	編集委員	宇宙惑星科学	長妻 努	情報通信研究機構
9	編集委員	宇宙惑星科学	山本 衛	京都大学 生存圏研究所
10	編集委員	大気水圏科学	日比谷 紀之	東京大学大学院理学系研究科
11	編集委員	大気水圏科学	池原 研	産業技術総合研究所地質情報研究部門
12	編集委員	大気水圏科学	井上 源喜	大妻女子大学社会情報学部
13	編集委員	大気水圏科学	金谷 有剛	海洋研究開発機構 地球表層物質循環研究分野
14	編集委員	大気水圏科学	兒玉 裕二	国立極地研究所
15	編集委員	大気水圏科学	三浦 裕亮	東京大学大学院理学系研究科
16	編集委員	大気水圏科学	大手 信人	京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻
17	編集委員	大気水圏科学	杉田 文	千葉商科大学
18	編集委員	大気水圏科学	芳村 圭	東京大学 生産技術研究所
19	編集委員	地球人間圏科学	千木良 雅弘	京都大学防災研究所
20	編集委員	地球人間圏科学	菊地 俊夫	首都大学東京都市環境科学研究科
21	編集委員	地球人間圏科学	村山 祐司	筑波大学大学院生命環境科学研究科
22	編集委員	地球人間圏科学	岡本 耕平	名古屋大学大学院環境学研究科地理学講座
23	編集委員	固体地球科学	平島 崇男	京都大学大学院理学研究科
24	編集委員	固体地球科学	加藤 照之	東京大学地震研究所
25	編集委員	固体地球科学	川勝 均	東京大学地震研究所
26	編集委員	固体地球科学	三ヶ田 均	京都大学大学院 工学研究科
27	編集委員	固体地球科学	宮内 崇裕	千葉大学大学院理学研究科
28	編集委員	固体地球科学	中田 節也	東京大学地震研究所
29	編集委員	固体地球科学	大谷 栄治	東北大学大学院理学研究科地学専攻
30	編集委員	固体地球科学	渋谷 和雄	国立極地研究所
31	編集委員	固体地球科学	清水 久芳	東京大学地震研究所
32	編集委員	固体地球科学	サイモン・ウォリス	名古屋大学大学院環境学研究科
33	編集委員	固体地球科学	渡辺 寧	秋田大学 国際資源学部
34	編集委員	地球生命科学	遠藤 一佳	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
35	編集委員	地球生命科学	小林 憲正	横浜国立大学大学院工学研究院
以下 今回承認新委員				
36	編集委員	大気水圏科学	三浦 裕亮	東京大学大学院理学系研究科

ダイバーシティ推進委員会名簿

No.	役職		氏名	所属
1	委員長	理事（日本海洋学会）	原田 尚美	国立研究開発法人海洋研究開発機構
2	副委員長	理事(日本地理学会, 日本地形学連合)	小口 千明	埼玉大学
3	副委員長	日本地形学連合	若狭 幸	秋田大学
4	副委員長	大気水圏科学セクション	井岡 聖一郎	弘前大学北日本新エネルギー研究所
5		固体地球科学	富樫 茂子	国立研究開発法人産業技術総合研究所
6		宇宙惑星科学	渡邊 誠一郎	名古屋大学
7		日本惑星科学学会	小川 佳子	会津大学
8		日本堆積学会	天野 敦子	国立研究開発法人産業技術総合研究所
9		日本火山学会	鈴木 由希	早稲田大学教育学部理学科地球科学専修
10		日本雪氷学会	紺屋 恵子	国立研究開発法人海洋研究開発機構
11		日本気象学会	清野 直子	気象研究所
12		日本地理学会	宋 苑瑞	東京大学
13		鉱物科学会	土屋 範芳	東北大大学
14		日本地震学会	齊藤 竜彦	防災科学技術研究所
15		日本地質学会	宮下 由香里	国立研究開発法人産業技術総合研究所
16		地球電磁気・地球惑星圏学会	坂野井 和代	駒澤大学
17		連合広報普及委員	末吉 哲雄	国立極地研究所
18		大気水圏科学	小杉 純子	京都大学大学院
19		日本地球化学会	津野 宏	横浜国立大学
20		日本地球化学会	山下 勝行	岡山大学
21		日本地熱学会	藤光 康宏	九州大学
22		日本地理学会	松山 洋	首都大学東京
23		地球生命科学	新井 真由美	日本科学未来館
24		固体地球科学	浜田 盛久	国立研究開発法人海洋研究開発機構
25		地球生命科学セクション	守屋 和佳	早稲田大学
26		地球生命科学セクション	濱村 奈津子	九州大学
27		地球生命科学セクション	吉川 知里	国立研究開発法人海洋研究開発機構
28		地球人間圏科学セクション	南雲 直子	国立研究開発法人大木研究所
29		地球人間圏科学セクション	古市 利久	University of the Sunshine Coast, Australia
30		宇宙惑星科学セクションプレジデント	高橋 幸弘	北海道大学
31		宇宙惑星科学セクション	陣 英克 / Hidekatsu Jin	情報通信研究機構 電磁波計測研究所
32		固体地球k科学セクション	阿部なつ江	国立研究開発法人海洋研究開発機構
33		固体地球科学セクション	前野 深	東京大学地震研究所火山噴火予知研究センター
以下 今回承認新委員				
34		日本地質学会	堀 利栄	愛媛大学

環境災害対応委員会名簿

No.	役職		氏名	所属
1	委員長	環境・災害担当理事	奥村 晃史	広島大学大学院文学研究科
2		理事副担当	井出 哲	東京大学
3	副委員長	日本地質学会	川畠 大作	産業技術総合研究所地質情報研究部門
4	副委員長	日本地理学会	吉田 英嗣	明治大学文学部
5		理事/大気化学会	北 和之	茨城大学理学部
6		先期委員長	田中 賢治	京都大学防災研究所
7		日本応用地質学会	竹村 貴人	日本大学文理学部地球科学科
8		日本応用地質学会	井口 隆	防災科学技術研究所
9		日本気象学会	塩竈 秀夫	国立環境研究所地球環境研究センター
10		日本気象学会	小司 祐教	気象研究所気象衛星・観測システム研究部
11		水文・水資源学会	葛葉 泰久	三重大学院生物資源学研究科
12		日本雪水学会	河島 克久	新潟大学災害・復興科学研究所
13		日本堆積学会	後藤 和久	東北大災害科学国際研究所
14		地学団体研究会	宮地 良典	産業技術総合研究所
15		地球電磁気・地球惑星圏学会	小嶋 浩嗣	京都大学生存圏研究所
16		地球電磁気・地球惑星圏学会	岡田 雅樹	国立極地研究所
17		日本地質学会	小荒井 衛	茨城大学理学部理学科
18		日本地熱学会	柳澤 敦雄	産業技術総合研究所 再生可能エネルギー研究センター
19		日本地図学会	宇根 寛	国土地理院
20		地理科学学会	浅野 敏久	広島大学大学院総合科学研究科
21		地理情報システム学会	後藤 真太郎	立正大学地球環境科学部
22		東北地理学会	村山 良之	山形大学大学院教育実践研究科
23		東北地理学会	大月 義徳	東北大学大学院理学研究科
24		日本リモートセンシング学会	作野 裕司	広島大学大学院工学研究院
25		日本陸水学会	知北 和久	北海道大学大学院理学研究院
26		日本第四紀学会	卜部 厚志	新潟大学災害・復興科学研究所
27		日本鉱物科学会	鈴木 正哉	産業技術総合研究所地質調査総合センター
28		日本活断層学会	小俣 雅志	株式会社パスコ
29		日本地震学会	松島 信一	京都大学防災研究所
30		日本水文科学会/日本地下水学会	林 武司	秋田大学教育文化学部
31		日本古生物学会/地球環境史学会	北村 晃寿	静岡大学理学部
32		東京地学協会	山下 亜紀郎	筑波大学生命環境系
33		日本地球化学会	益田 晴恵	大阪市立大学理学院理学研究科
34		日本粘土学会	山崎 淳司	早稲田大学創造理工学部
以下 今回承認新委員				
35		日本火山学会	山里 平	気象研究所
36		日本火山学会	三浦 大助	電力中央研究所 地球工学研究所 地図科学領域
37		日本地理教育学会	青木 久	東京学芸大学教育学部地理学分野

教育検討委員会名簿

No.	選出学協会	氏名	所属
1	日本気象学会	畠山 正恒	聖光学院中学高等学校
2		西 弘嗣	東北大学
3	日本地震学会	根本 泰雄	桜美林大学自然科学系
4	日本地球化学会	瀧上 豊	関東学園大学
5		宮嶋 敏	埼玉県立深谷第一高等学校
6	日本地質学会	阿部 國廣	認定 NPO法人自然再生センター
7		縫村崇行	千葉科学大学
8	生命の起源および 進化学会	三田 肇	福岡工業大学工学部生命環境科学科
9	資源地質学会	宮下 敦	成蹊中学高等学校
10	資源地質学会	西村光史	東洋大学
11		石内 鉄平	明石工業高等専門学校
12	日本地形学連合 地球人間圏 幹事	島津 弘	立正大学地球環境科学部地理学科
13	日本海洋学会	川合 美千代	東京海洋大学 先端科学技術研究センター
14	日本鉱物科学会	奥山 康子	産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地圈資源環境研究部門
15	水文・水資源学会	市川 温	京都大学
以下 今回承認新委員			
16	地学団体研究会	飯田 和明	埼玉県立浦和東高等学校
17	東北地理学会	小田 隆史	宮城教育大学
18	日本雪氷学会	小西 啓之	大阪教育大学
19	日本地球化学会	津野 宏	横浜国立大学
20	日本地学教育学会	林 慶一	甲南大学理工学部
21	日本地熱学会	藤光 康宏	九州大学
22	地震学会	南島 正重	東京都立両国高等学校
23	物理探査学会	山田 伸之	福岡教育大学

広報普及委員会名簿

No.	役職		氏名	所属
1	委員長	担当理事	田近 英一	東京大学
2	副委員長	担当理事	道林 克禎	静岡大学
3	副委員長		原 辰彦	建築研究所
4	幹事	JGL編集担当	橋 省吾	北海道大学
5	幹事	ウェブ担当	成瀬 元	京都大学
6	幹事	メディア担当	高橋 幸弘	北海道大学
7	幹事	社会国際連携担当	宮本 英昭	東京大学
8	幹事	危機管理対応担当	横山 広美	東京大学
9	JGL副編集幹事		東宮 昭彦	産業技術総合研究所
10			谷 篤史	大阪大学
11			阿部 彩子	東京大学
12			奥村 晃史	広島大学
13			生形 貴男	京都大学
14			大河内 直彦	海洋研究開発機構
15			佐藤 活志	京都大学
16			吉本 和生	横浜市立大学
17			関根 康人	東京大学
18			山田 耕	早稲田大学
19			久利 美和	東北大学
20			紺屋 恵子	海洋研究開発機構
21			瀧上 豊	関東学園大学
22			笠井 康子	通信総合研究所
以下	今回承認新委員			
23			飯田 佑輔	関西学院大学大学院理工学研究科
24			村上 豪	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 (ISAS/JAXA)
25			和田 浩二	千葉工業大学惑星探査研究センター
26			岡 頸	東京大学大気海洋研究所
27			植田 宏昭	筑波大学大学院生命環境科学研究科
28			後藤 和久	東北大学災害科学国際研究所
29			吉澤 和範	北海道大学大学院理学研究院 地球惑星科学部門
30			黒田 潤一郎	東京大学大気海洋研究所

大会運営委員会名簿

No.	役職	氏名	所属
1	委員長	浜野 洋三	海洋研究開発機構
2	副委員長	岩上 直幹	
3	副委員長	興野 純	筑波大学
4		高橋 幸弘	北海道大学
5		道林 克禎	静岡大学
6		中村 昭子	神戸大学
7		北 和之	茨城大学
8		能勢 正仁	京都大学
9		近藤 昭彦	千葉大学
10		財城 真寿美	成蹊大学
11		赤坂 郁美	専修大学
12		和田 浩二	千葉工業大学
13		小谷 亜由美	名古屋大学大学院
以下	今回承認新委員		
14		縫村 崇行	千葉科学大学

法人運営基本規則の改定について

第5章 会費の滞納に対する処分

(会費滞納に対する処分)

第10条 会費を滞納した会員については、次に掲げる各号の処置をとることができる。

- (1) 登録料等を非会員扱いとすること。
- (2) ニュース、雑誌への投稿を制限すること。

~~2 本法人に再入会する者で、過去に未納会費がある場合は、これを納めなければならない。~~

附則(追記)

(9) 2016年9月30日 第10条改正

報告事項 団体会員に関する定款及び関連規則変更の検討状況報告

平成 27 年度 定時社員総会（平成 27 年 5 月 27 日開催）

議事録より

第 2 号議案 法人運営基本規程第 3 条(団体会員の入会基準)改正の件

議長の指名により、会長津田敏隆氏から、法人運営基本規程第 3 条の改正について説明があった。連合の団体会員の入会基準を「地球惑星科学に関わる活動実績を有する「日本学術会議協力学術研究団体」に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体」と改正することを諮ったところ、社員の賛成多数により承認された。

第 13 回学協会長会議（平成 27 年 10 月 8 日開催）

議事録より

(4) 法人運営基本規程第 3 条改正について

法人運営基本規程第 3 条の改正について、津田会長より報告があった。平成 27 年度定時社員総会(5 月 27 日)にて改正された。連合の団体会員の入会基準を、「地球惑星科学に関わる活動実績を有する「日本学術会議協力学術研究団体」に登録された学術研究団体、又はこれに準ずる学術研究団体で、この法人の目的及び事業に賛同し、入会を希望する団体」と改正した。

これは第 11 回学協会長会議(平成 26 年 10 月 16 日)にて報告があったとおり、内閣府公益認定等委員会事務局からの二点の指摘のうち一点に基づく改正である。

もう一点の指摘についても検討している。すなわち「連合の社員(代議員)は、正会員により選出された代議員(選出代議員)と団体会員(加盟学協会)の代表(団体代議員)により構成されるが、正会員によっては、自身が加盟する学協会の代表の選出を通じて二重に連合の意志決定に参画できることになり、公平性に欠けるのではないか」という指摘である。これについての意見交換を行った。

現状の規則や制度の中での公平性を充分に説明できれば、現在の体制が認められるのではないかという意見、仮に体制を変更することになった場合の団体会員の意見の反映のための制度についての意見など、様々な意見が挙げられた。引き続き、連合理事会でも議論を続けてゆく。

日本地球惑星科学連合第4回理事会（平成27年10月26日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告

津田代表理事より、連合全体の活動について報告があった。

10月16日(金)に開催された経営企画会議についての報告があった。中でも、かねてより内閣府公益認定等委員会から指摘を受けていた連合の社員構成の件についての検討状況が報告され、当理事会でも意見交換を行った。今後も充分検討する必要があるとした。

日本地球惑星科学連合第5回理事会（平成28年1月28日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告

津田代表理事より、社員の体制に関する検討について報告があった。

前回理事会までの議論を踏まえ、現在の団体会員を社員とする体制を変更する場合の新たな体制、理事会との関わり方の検討や、学協会長会議幹事会(仮)の設置について提案があり、意見交換を行った。将来的な定款の改定を伴う体制の変更に向け、今後更に検討してゆくこととなった。

日本地球惑星科学連合第6回理事会（平成28年3月10日開催）

議事録より

(1) 津田敏隆代表理事職務報告(抜粋)

団体会員について、これまでの議論に基づき、定款および規則の変更箇所を議論した。

社員構成では団体会員を除き、選出代議員のみで構成することが議論された。今後、社員(代議員)の定数を検討する必要がある。また、学協会長会議の位置づけと、社員総会と理事会との協調関係についてさらに検討を加える必要がある。この提案を次回の社員総会で紹介し、次々回の社員総会で定款の改訂を目指す。

第 14 回学協会長会議（平成 28 年 5 月 23 日開催）

議事録より

3. 団体会員に関する定款および関連規則の変更について（津田会長）

団体会員に関する定款および関連規則の変更について、昨年度定時社員総会以降の検討状況について津田敏隆会長から説明がなされた。引き続き理事会にて検討し、来年度の定時社員総会にて定款及び関連規則の変更を議事として諮ることを予定している旨の報告があった。

具体的には、団体会員について、社員としてではなく別の形で連合の運営に関わるよう変更することを検討している。その一案として、理事会との連携強化に向け、従来の学協会長会議に加え、**学協会長会議幹事会(仮称)**の設置とその具体的な開催を出席者に諮り、ともに了承された。

平成 28 年度 定時社員総会（平成 26 年 5 月 23 日開催）

議事録より

報告事項（3）団体会員に関する定款及び関連規則変更の検討状況報告

議長の指名により、津田敏隆会長から、現行定款において代議員及び団体会員をもって本法人の社員としていることを、将来的に代議員のみを社員とすることについて、昨年度定時社員総会以降の検討状況について説明がなされた。引き続き理事会にて定款及び関連規則の変更について検討し、来年度の定時社員総会にて議事として諮ることを予定している旨、報告があった。

公益社団法人日本地球惑星科学連合定款（抜粋）

(法人の構成員)

第7条 この法人に次の会員を置く。

- (1) 正会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人
- (2) 団体会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる学術 研究団体
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人又は団体
- (4) 名誉会員 この法人に功労のあった者又は学識経験者で社員総会において推薦された者

2 この法人は、正会員の中から選出された代議員及び団体会員をもって、公益社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下、「法人法」という。）上の社員とする。

(代議員の定数、選出方法、任期及び欠員措置)

第11条 代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。

(構成)

第27条 社員総会は、団体会員及び代議員をもって構成する。

2 社員総会における議決権は、団体会員及び代議員いずれも1名につき1個とする。

第6章 学協会長会議

(設置等)

第48条 この法人は、団体会員の代表者を委員とする学協会長会議を設ける。

2 学協会長会議は、理事会の諮問に応え、理事会に対し、意見を述べることができるとともに、理事会の承認のもと、その名において対外的な意見の表明ができる。

法人運営基本規程（抜粋）

（代議員の定数）

第6条 代議員の定数は、150名とする。理事会の定めにより別に設ける代議員の選出のための正会員による選挙の日を公示した日（以下「選挙公示日」という。）の前日における団体会員の数の2倍とする。

（社員の出席）

第15条 代議員たる社員は、自ら又は他の代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

2 団体会員たる社員は、代表者自ら若しくはその団体の役員、会員、社員若しくは使用人を指定して又は代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

3 社員総会の招集通知は、定期総会にあっては4月末日現在、臨時社員総会にあってはその開催日の3週間前の時点での社員名簿の登録に従って発すれば足りるものとする。

4 社員総会に出席する者は、会場の受付にて、次のとおり、その出席資格の確認を受けなければならない。

- (1) 代議員たる社員本人が出席する場合には、本人であること
- (2) 代議員たる社員又は団体会員の代理人として出席する場合には、委任状等の提出によりその代理権を有する者であること
- (3) 団体会員たる社員の代表者が出席する場合には、その団体の代表者本人であること
- (4) 団体会員から指定を受けた役員又は使用人として出席する場合には、その旨の書面により、その団体から指定を受けた者であること

5 代理人欄が空欄の委任状が提出された場合には、社員総会の議長が選任されたものとみなす。

法人運営基本規則（抜粋）

第8章 学協会長会議

（任期等）

第15条 学協会長会議の委員は、団体会員の登録代表者が就任し、登録代表者の交代に伴い委員も当然に交代するものとする。

2 学協会長会議の議長は、委員の互選により選出する。

3 委員本人がやむを得ず出席できない場合には、団体会員にあってこれに準ずる立場の者が委員本人に代わって出席できるものとする。

団体会員の新体制へのスケジュール（案）

- (1) 団体会員を社員から外す。選出代議員定数を変更する。
- (2) 学協会長会議監事会を発足。理事会と学協会との連携を強化する。

日程	会議	内容
平成28年(2016年) 5月23日 (大会時)	第14回学協会長会議	・団体会員の体制変更について検討
	定時社員総会	・団体会員の体制変更について説明 (翌年の定款改訂を確認) ・新役員の選任
	第1回理事会	・代表理事の選任
9月30日	第4回理事会	
10月25日	第15回学協会長会議	・団体会員の体制変更を再確認 ・学協会長会議監事会の設置を検討
平成29年(2017年) 3月	第7回理事会	・社員総會議事の確認 → 学協会長会議から意見を求める
5月初旬	第8回理事会	・社員総會議事の確定
(大会時)	第16回学協会長会議	・社員総會議事の説明 ・学協会長会議幹事会の設置を審議
	定時社員総会	・定款の改訂（団体会員の体制変更）

学協会長会議規則（案 s）

（趣旨）

第1条 この規則は、定款及び法人運営基本規則に基づき、学協会長会議に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務） *以下、斜字体は法人運営基本規則により既に定められている事項の再掲載。

第2条 団体会員の代表者を委員として設けられた学協会長会議は、理事会の諮問に応え、理事会に対し、意見を述べることができるとともに、理事会の承認のもと、その名において対外的な意見の表明ができる。

（任期等）

第3条 学協会長会議の委員は、団体会員の登録代表者が就任し、登録代表者の交代に伴い委員も当然に交代するものとする。

- 2 学協会長会議の議長は、委員の互選により選出する。
- 3 委員本人がやむを得ず出席できない場合には、団体会員にあってこれに準ずる立場の者が委員本人に代わって出席できるものとする。

（会議の下に置く組織）

第4条 学協会長会議のもとに幹事会を置く。幹事会は、学協会長会議を代表して意見を集約し、理事会にオブザーバ出席して学協会との情報共有に努める。

- 2 幹事会メンバーの任期は、学協会長会議の委員の任期による。

学協会長会議幹事会細則（案）

（趣旨）

第1条 この規則は、学協会長会議規則に基づき、学協会長会議監事会（以下、「監事会」と言う。）の設置と運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（幹事会の選出）

第2条 幹事会の長は、学協会会議議長とする。幹事会の長は、加盟学協会議の中からセクションや分野の偏りを排除して5名以内の監事会メンバーを指名する。

- 2 当連合の理事・監事は監事会メンバーとなることはできない。

(監事会の開催)

第3条 監事會は、5月と10月に開催される学協会長會議に先立ち3月～4月、及び7月～8月頃に開催するほか、幹事會の長が必要と認めた場合に開催するものとする。

(オブザーバ)

第4条 団体会員の登録代表者の交代に伴い、学協会長會議の委員を交代した監事會メンバーは、監事會の長の求めにより監事會にオブザーバ出席する。

【監事會メンバーを選定する上での注意】

- * 任期途中で会長（団体会員の登録代表者）が交代した場合には、監事會の委員（学協会長會議の委員）も当然に交代することになる。
- * 監事會には、JpGUの理事会メンバーが加盟しないことが望ましい。

協力学会取り扱い内規変更依頼メール

男女共同参画学協会連絡会の皆様

アンケート実施 WG 事務局でございます。

平素より男女共同参画学協会連絡会にて大変お世話になっております。

これまでの 3 回のアンケート実際の際に、アンケート参加者を増やす一方策として、大型アンケートへの協力学会を推薦して頂き、アンケート参加を依頼するという形をとって参りました。

そのため、アンケート実施毎に「大規模アンケート協力学会取り扱いに関する要項」を作成し、連絡会でご承認を頂いています。

今回、第 4 回アンケート実施に当たり、以下の点を変更させて頂きたいと思います。

- 1) プレ WG で協力学会の候補を抽出し、連絡会に報告した後、アンケート参加を依頼する
- 2) 「協力学会取り扱いに関する内規」(添付ファイル) という形に修正し、今回以降のアンケート実施時に基本的に運用される形にする

時間的な余裕がないため、メール会議での審議とさせて頂きます。

添付の文書をご確認頂きご意見ございましたら、9月 30 日（金）までに
アンケート WG 事務局 danjo2016@scej.org までご連絡下さい。

9月 30 日（金）までにご意見がない場合には、ご承認頂いたものと判断させて頂きます。

また、大規模アンケートは 10 月 8 日（土）に開始いたします。

多くの方々にご参加頂けるよう、引き続きのご協力をどうぞよろしくお願い致します。

男女共同参画学協会連絡会大規模アンケート
協力学会取り扱いに関する内規

平成 28 年 9 月 30 日制定

男女共同参画学協会連絡会（以下連絡会と略す）大規模アンケート実施に際し、アンケートに参加協力する連絡会非加盟の学協会（以下協力学会と略す）の取り扱いについて以下のとおり定める。

（協力学会の承認）

1. アンケート調査のためのプレ WG が本アンケート参加に適切と判断して抽出した学協会を協力学会として、連絡会正式加盟学協会およびオブザーバー加盟学協会に報告し、大規模アンケートへの参加を依頼することができる。

（費用）

2. 協力学会の大規模アンケートに参加に際し、費用負担は求めない。

（アンケートデータの取り扱い）

3. 協力学会には、全体の集計結果の報告を行なうが、データの提供は行わない。

AOGS2016 Beijing Booth 出展報告

事務局 白井 佳代子

<背景>

日本地球惑星科学連合(JpGU)と AOGS は MOU に基づき各々の大会で complimentary booth を提供している。 今回も JpGU-AGU Joint Meeting 2017 のプロモーションと P EPS の宣伝のため、AOGS2016 Beijing、B11 ブースにて出展を行った。

<JpGU 関係者>

事務局の担当として、白井佳代子、AOGS から招待された川幡穂高会長、木村学グローバル戦略委員会委員長、末広潔 JpGU-AGU Joint Meeting 2017 Task Force Chair をはじめ、Liu Huixin JpGU-AGU Joint Meeting 2017 Program Committee Chair、高橋幸弘 JpGU Space and Planetary Sciences Section President がブースにて宣伝活動を行った。特に、Huixin 先生のお子様方、Sophie さんと Reo くんが Goodwill ambassador として大活躍してくれた。

<期間>

会期は7月31日（土）から8月5日（金）までの6日間で、7月31日（土）のアイスブレーカーから最終日午前中まで、JpGU-AGU Joint Meeting 2017 のリーフレット900部、PEPS のリーフレット250部と共に、JpGU ロゴの入ったブックマーク1,200枚と PEPS 提供の扇子380個を配布した。JpGU ブースは大盛況で、3日目の水曜日には用意をしていた物がほぼ完売状態であった。

<ブースへの来訪者>

ブースに立ち寄られた方々は中国、台湾、フィリピン、インドと多岐に渡り、特に若者の参加者が多いように見えた。 Student Volunteer として AOGS の運営を手伝っていた学生ボランティアが多く、来年度のジョイントミーティングに興味を示していた。また、PEPS の手作り地球儀も大人気で、こちらも水曜日には配布を終了した。

<具体的なレポート>

- 1) 場所・現地の様子：展示会場はオリンピック記念公園近くの国家会議中心(China National Convention Center)の Level 3,4 で展示会場は Level 4 の plenary Hall A のポスター会場内であった。外がスマッジで曇っている日もあった。
- 2) 会場サービス（ドリンクなど）：1日目（月曜日）：夕方からアイスブレーカー、毎日ポスタークオータイムは 4:00-6:00pm で会場内では午前午後のコーヒーブレイクとポスタークオータイムにはビールも提供された。また、今回出展者には毎日ホール外のコーナーで、ビュッフェスタイルのランチが提供された。NASA の Hyperwall presentation も開催されていたが、JpGU Meeting に参加しているチームと全く違うようである。他には台湾、中国からの出展者も多く、日本からは他に ERI(東京大学地震研究所)と EPS(Earth, Planets and Space)が出展していた。 セッション会場には常に水のペットボトルがふんだんに用意されていた。

3) 参加者など：レジストレーションは JpGU Meeting と同様、事前に送られてきたバーコードをスキャンして発券するシステムであり、発券もスムーズで行列ができるることはなかったようである。参加人数は 48 か国から 3053 人で有料参加者は 2885 人であった。

4) インターネット+印刷：受付近くでインターネット及び、印刷ができるようになっていた。ただ故障していることも多く、またプリンターは白黒だった為、改善の余地があるように思った。4 日目 木曜日の夜には会議場の 1F Ball RoomA にて 1 テーブルに 10 名まで座れる着席方式でビュッフェ形式の Convener's Dinner が開催された。Co-convener も、かなりの人数が参加していた。

6) 来年の JpGU-AGU 開催に向けて：来年のジョイントミーティングでも採用したらよいと思った点は、「各ブースにテーブルではなく、鍵のかかるキャビネットがデフォルトでついていた」ことである。日本ではセキュリティーの問題は、中国ほどではないかと思うが、出展者としては貴重品を入れるのに安心であった。

7) その他：中国のインターネット事情に不慣れであった為、事務局のメールアドレス、gmail, フェースブック、ツイッター、ラインなどが使えず、ウェブメールへの転送に頼らざるをえなかった。もっとも、ホテルも含めて、ネットが非常におそく、大容量でなくともファイルの授受に支障があった。

最終日金曜日は午後 3 時頃の便で帰国の為、朝からブースの片付けを行った。写楽のタペストリーは大変好評だったので、海外でのブース出展の時には今後とも使用するとよいと思う。

Picture1.



Picture2.



Picture3.



Picture4.



写真 : Picture1. #B11 JpGU Booth in the Plenary Hall A on the 4th floor of CNCC

Picture2. Exhibitor's Area

Picture3. Convener's Dinner at Ball Room A on the 1st floor

Picture4. Registration Desk on the 3rd floor

秋の公開講演会 2016 「変動する地球—地震・生態系を探る最新研究」

開催日時	2016 年 11 月 27 日(日)
会場	東京大学本郷キャンパス 小柴ホール
対象	高校生を対象とするが、一般参加も受け付ける
定員	150 名(小柴ホール定員)
参加費	無料
参加方法	事前申込み制(ウェブフォームから受付ける)

講演者

平田 直(東大地震研)
「熊本地震と日本の地震災害について」(仮)



原田 尚美(JAMSTEC)
「二酸化炭素問題と海洋生態系」

広報方法

ウェブ: <http://www.jpgu.org/public/20161127/>

高校生:
関東近郊高校へのポスターと案内文の送付

一般:
メールニュースでの会員への告知
近郊図書館、公民館等へのポスター掲示依頼
SNS の利用

The poster features the Japan Geoscience Union logo at the top right. The main title is "秋の公開講演会 2016 「変動する地球—地震・生態系を探る最新研究」". It includes the date "2016年11月27日(日) 13:00~16:00", the venue "東京大学本郷キャンパス 理学部1号館2階 小柴ホール", and speaker information for both Naoto Hirata and Naoko Hirata. A QR code is located in the bottom right corner.

2017年度公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー募集について

<http://www.jpgu.org/news/fellowship/fellow2017program.html>

公益社団法人日本地球惑星科学連合は 2017 年度公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー（以下フェロー）の候補者を募集いたします。

日本地球惑星科学連合フェロー制度は、地球惑星科学において顕著な功績を挙げた方を高く評価し、名誉あるフェローとして待遇することを目的として設置されたものです。（関連規約はこちら）

フェローは推薦者により推薦され、会長の諮問委員会であるフェロー審査委員会において推举された方々の中から、理事会において承認された方々とします。フェローには年齢制限、人数の制限は設けません。

【JpGU フェローの満たすべき要件】

以下のいずれかに該当する方

- （1） 地球惑星科学研究領域におけるパラダイムシフトやブレークスルーもしくは発見などを中心に、地球惑星科学の学術の発展に著しい貢献をした方
- （2） 日本の地球惑星科学の発展、あるいは地球惑星科学の知識普及に著しい貢献をした方

【JpGU フェロー被推薦者】

会員・非会員を問いません。ただし、以下の者は推薦の対象となりません。

- ・ JpGU の現職理事・監事・セクションプレジデント
- ・ フェロー審査委員

【決められた年度のフェロー選出スケジュール】

前年度の 10-12 月 推薦期間

前年度の 1-3 月 JpGU フェロー審査委員会による審査期間

当該年度の 3 月理事会 JpGU 理事会による承認

当該年度の連合大会 JpGU フェロー顕彰式

【推薦の様式】

JpGU フェローを推薦する方（以下、主たる推薦者とする）は以下の書面をもって JpGU 会長に推薦をしてください。書式は特段定めません。

- ・ 被推薦者の氏名（和文および英文表記）、連絡先（所属機関、役職（引退後は、これに代わる肩書き）住所、電話番号、メールアドレス）
- ・ 被推薦者の履歴（専門分野、研究歴、受賞歴、大学・研究機関・学協会等に於ける貢献）
- ・ 主要な論文あるいは特許等、あわせて 5 編のリストおよびその別刷り（コピー可）
- ・ 全論文リスト
- ・ 推薦理由書（A4 で 2 ページ以内、日本語あるいは英語）
- ・ 主な業績（400 文字以内、日本語あるいは英語）

- ・一行推薦理由 (Short citation, 日本語および英語)

日本語 フォーマット：「(専門分野、領域等への) 頗著な貢献により」、文字数：50～80 文字程度

英語 フォーマット：「for outstanding contributions to (専門分野、領域等)」、文字数：半角 120～250 文字程度」
(参照：2016 年度フェロー紹介ページ <http://www.jpgu.org/jpgu-fellowship/2016/2016fellow.html>)

- ・3通のサポートレター (推薦者以外3名による。A4で1ページ、日本語あるいは英語、連名を可とする)
- ・主たる推薦者1名の氏名と連絡先 (所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど)

【推薦方法】

- ・提出はワードファイル、およびその PDF 版を当該年度の推薦期間内に連合フェロー担当事務局 (jpgu_fellow(at)icloud.com) にメールにて送付してください。但し論文別刷りは PDF のみで結構です。
- ・ワードファイル、PDF ファイルはそれぞれ 1 ファイルにまとめてください。
- ・ファイルの大きさは 25Mbyte までにしてください。
- ・メールの件名は” JpGU フェロー推薦書 (候補者氏名)” としてください。

これ以外の件名で送信した場合、spam メールとして処理されるなど、正しく処理できない恐れがあります。

受領の確認メールが一週間以内に届かない場合は必ずお問い合わせ下さい。受領の確認メールが届いていない場合、推薦が受付されない恐れがあります。

【JpGU フェローの表彰】

- ・JpGU 連合大会開催時に JpGU フェロー表彰式を開催し、メダル等を進呈します。

【JpGU フェロー審査委員会】

- ・JpGU フェロー審査委員は理事会の議を経て会長が指名します。
- ・委員は 5 名とし、任期を 2 年とします。ただし、半数 (2 ないし 3 名) を一年毎に改選することとし、最初の委員のうち 2 名は 3 年の任期とします。
- ・委員は JpGU 会員の中からサイエンスセクションの配分を考慮して選びます。
- ・委員長は JpGU 会長が指名します。
- ・委員名は、委員が任期を終え、改選された時点で公表するものとします。

★推薦書送付期限：2016 年 12 月 31 日（木）必着

★推薦状送付先アドレス : jpgu_fellow(at)icloud.com

★フェロー制度に関するお問い合わせ：担当理事 中村正人

2016 年 9 月 20 日

中村正人

第2回地球惑星科学振興西田賞候補者募集

<http://www.jpgu.org/news/fellowship/fellow2017program.html>

この度公益社団法人日本地球惑星科学連合は第2回地球惑星科学振興西田賞の候補者を募集いたします。この賞は、国際的に評価を得ている優れた45歳未満の中堅研究者を表彰するものとして2014年に創設いたしました。賞の名称は西田篤弘会員（連合フェロー）のご提案と寄付金により賞を維持することに由来します。

1. 受賞者の条件

地球惑星科学の分野において新しい発想によって優れた研究成果を挙げ、国際的に評価を得ている方で審査年度当初（4月1日）に45歳未満の研究者が受賞対象者となります。（本年度については、1971年（昭和46年）4月2日以降に生まれた者。）原則として個人ですが、2名までの連名を認める場合があります。地球惑星科学連合会員・非会員、国籍、性別は問いません。

2. 受賞者数

10件以内。原則として各サイエンスセクションに該当する分野において最低1件を選ぶ事とし、配分においてはサイエンスセクションの規模を考慮します。

3. 推薦

i. 選考対象は他薦または自薦による候補者とします。候補者は会員・非会員を問いません。他薦の場合、正会員のみが推薦者となることができます。選考対象は推薦によるものとし、正会員による他薦、および自薦を認めます。ただし他薦の場合には本人に受賞の意思があることを事前に確認することが必要です。

ii. 推薦に必要な書類は以下の通りです。全て日本語か英語にて作成して下さい。両言語の混在は可とします。

- ・ 候補者の名前、連絡先（所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど）
- ・ 候補者の経歴、受賞歴
- ・ 全査読付き論文リストおよび主要な論文5編の別刷り
- ・ 推荐理由書（A4で6ページ以内）
自薦の場合は本人が、他薦の場合は推薦者が作成してください。
- ・ 自薦の場合は2通のサポートレター、他薦の場合は推薦者以外の2名のサポートレター
自薦の場合は本人以外の2名が作成してください。自薦の場合も他薦の場合もサポートレターを作成する2名について会員・非会員を問いません。
- ・ 他薦の場合は推薦者の氏名と連絡先（住所、電話番号、メールアドレスなど）

iii. 提出はワードファイル、およびそのPDF版を当該年度の推薦期間内に地球惑星科学振興西田賞事務局(jpgu_nishidasho@icloud.com)にメールにて送付してください。但し論文別刷り、およびサポートレターはPDFのみで結構です。

受領の確認メールが一週間以内に届かない場合は電話にてお問い合わせ下さい。受領の確認メールが届いていない場合、推薦が受付されない恐れがあります。

4. 審査委員会

- i. 各セクションから選出された委員で構成します。任期は選考を行う年度の 10 月から 3 月までとし最初の審査開始から最大 4 年まで再任を認めます。
- ii. 委員は受賞候補者と同様の資格を満たし、当該分野の現状に通じた経験豊かな会員で、各サイエンスセクションから複数名（最低 1 名）の選出に基づき構成されます。分野毎の人数はサイエンスセクションの規模を考慮し、全体で 15 名程度といたします。
- iii. 委員は当該年度の 9 月～10 月の理事会で承認し、委員長は互選といたします。
- iv. 委員の名簿は審査段階では非公開とし、受賞者発表時に公開する事と致します。

5. 第 2 回スケジュール

- i. 2016 年 9 月 20 日～12 月 15 日：推薦期間

2016 年 9 月～10 月：審査委員を理事会で決定（委員任期 2016 年 10 月～2017 年 3 月）

- ii. 2016 年 12 月 16 日～3 月理事会前日まで：審査期間

iii. 2017 年 3 月理事会：審査委員長は結果を理事会へ報告、報告後すみやかに受賞者をホームページなどで発表します

- iv. 受賞者を 2017 年の連合大会で表彰いたします。

- v. 受賞者は 2018 年の連合大会で記念講演を行って頂きます。

6. 顕彰方法

- i. 賞状を贈ります

- ii. 副賞として受賞者に 1 件あたり 50 万円を贈ります。

賞の規則及び審査委員会規則は以下に掲示されています。

<http://www.jpgu.org/soshiki/kisoku/nishidashou.pdf>

http://www.jpgu.org/soshiki/kisoku/nishidashou_shinsa.pdf

この賞についてのご質問は jpgu_nishidasho@icloud.com にお願い致します。

平成 28 年 9 月 20 日

顕彰制度担当理事 中村正人

1. トムソン・ロイター(インパクト・ファクター IF)とエルゼビア(Scopus)申請 (資料 J_1)
ジャーナル評価指標取得のために、8月に IF、9月に Scopus の採録申請を行った。これに伴い、トムソン・ロイター・ジャパンを訪問して申請報告を行うとともに、2000～3000 誌/年の採録申請(採録率 10～15%程度)の中で正当な評価を得るためのアドバイス、審査部門担当者の紹介を得た。補強説明のため、審査部門ヘッドクオータを 11 月中旬目途に訪問予定。
2. JSPS 個別相談会(資料 J_2)
9/5 に、平成 29 年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費)の公募に関する個別相談会が開催され、川幡会長より PEPS の取組についての紹介、JSPS からアドバイスやコメントがあった。
3. 論文投稿・出版状況(資料 J_3)
 - ・論文投稿数(Total:189)
 - ～2014 年: 71(Editorial-3, Correction-1, Review-21, Research-45, Methodology-1)
 - 2015 年: 75(Review-21, Research-50, Methodology-3, Editorial-1)
 - 2016 年: 43(Review-2, Research-39, Preface-2)
 - ・出版論文数(Total:100 Review 論文 33%)
 - ～2014 年: 29(editorial-3, Correction-1, Review-7, Research -18)
 - 2015 年: 46(Review-15, Research-31)
 - 2016 年: 25(Review-9, Research-12, Methodology-1, Preface-2, Editorial-1)
 - ・査読中 : 20(Research-20)
 - ・出版校正中: 9(Review-1, Research-8)
 - ・reject/withdrawn 濟: 60 件(32.3%)
4. 新規編集委員・ジャーナル企画経営拡大委員
専門分野を補強するため、下記の編集委員を追加する。
(大気水圏科学セクション)
三浦裕亮、東京大学大学院理学系研究科

参考として、下記 2 名の外国人編集委員も追加した。
(大気水圏科学セクション)
Chung-Hsiung Sui, National Taiwan University(台湾)
(固体地球科学セクション)
Frances Cooper, University of Bristol(UK)

また、セクション・プレジデントの改選に伴い、新セクション・プレジデントにジャーナル企画経営拡大委員の就任を依頼する。(参考資料 J1 ジャーナル組織概要)

5. JpGU-AGU Joint Meeting 2017、PEPS 特別セッション募集開始(資料 J_4)

PEPS に、論文投稿を確約する英語発表セッション対象に、

海外からの招待者の旅費を支援する「PEPS 特別セッション」を募集開始、JpGU2017 セッション提案サイトに掲載し、代議員と 2016 連合大会コンビーナに案内送付。

6. ジャーナル編集長会議

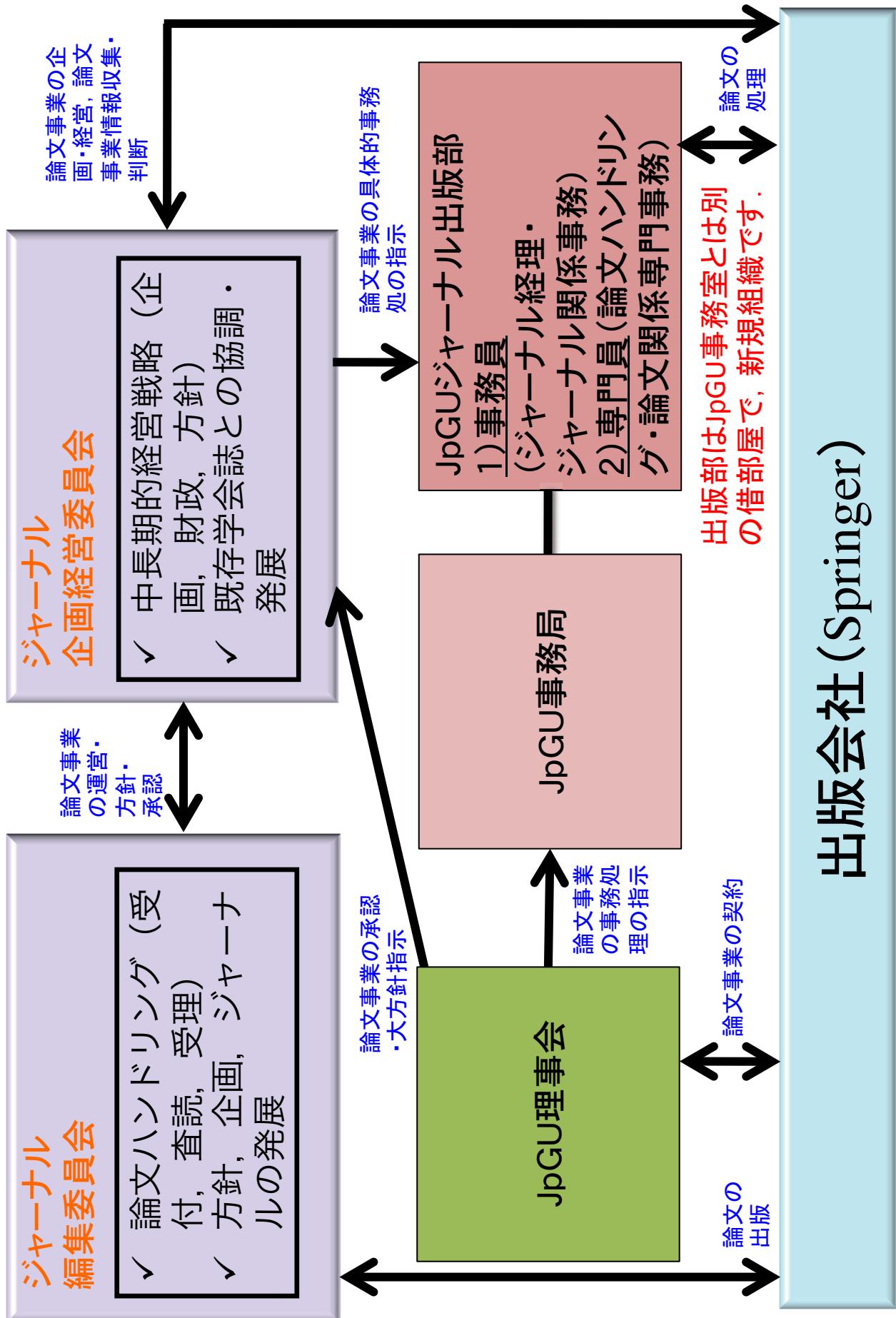
第 3 回編集長会議 (H28/5/7/26)

Springer サイトの更新にともなう投稿テンプレートの見直し、新しく取り組む Data Publishing のガイドライン、テンプレート、査読体制等について検討した。

第 4 回編集長会議 (H28/9/16)

Data Publishing のおおまかな投稿受入れ環境を 9 月中に整備し、ターゲット論文の 10 月投稿受付を目指す。Authorship(参考資料 J2)について編集委員会にて合意、提示方法については要検討。また、東大医学部における捏造問題における Ethics について意見交換。主に著者に依頼している日本語 abstract 執筆協力について、PEPS HP 上に明記する。

「Progress in Earth and Planetary Science」出版事業の組織概要



ジャーナル企画経営拡大委員会（案）（開催年2回程度） (拡大＝図中赤枠の範囲)

ジャーナル企画経営委員会（案）（随時開催）
(青枠範囲)

委員長(川幡穂高)

JpGU会長(津田敏隆)

3JpGU副会長(木村学, 中村正人)

必要ならJpGUより一人(田近英一)

総編集委員長(井龍康文)

3編集長(小原一成, 佐藤正樹, 多田隆治)

1-2ジャーナルに詳しい関係者(小田啓邦)

5人, JpGUセクションプレジデント

2JpGU参加学会でジャーナルに詳しい有識者(とりあえず)

2人, 外部有識者(林様, 他学会)

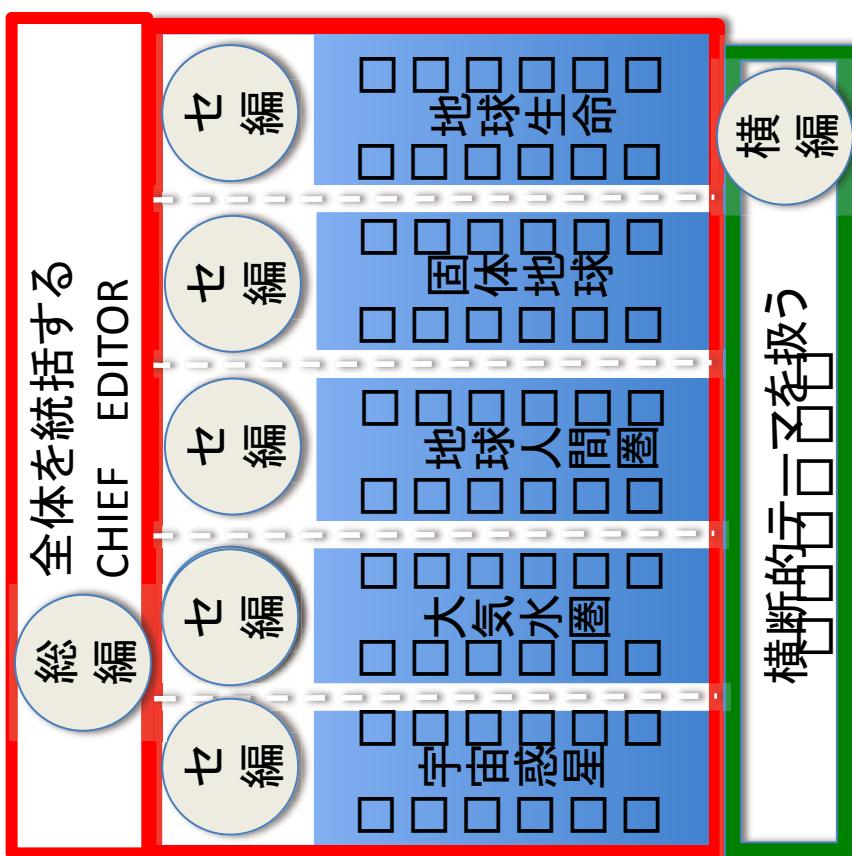
2012年7月から2年間（論文増えたら構造改変） 「Progress in Earth and Planetary Science」編集長

総編集長
(井龍康文)
編集長

小原一成(固体地球科学)
倉本圭(宇宙惑星科学)
佐藤正樹(大気水圏科学)
松本淳(地球人間圏科学)
川幡穂高(地球生命科学)
多田隆治(横断)

総編
セクション編集長
セクション編集長

編集委員(約50名)



投稿料金（決定） ジャーナル企画経営拡大委員会で議論・決定

- 最初の2年間
招待論文（著者負担0%, JpGU支援100%）
Review論文（著者負担0%, JpGU支援100%）
優秀論文（著者負担0%, JpGU支援100%）
(セッション長の推薦必要)
- 最初の2年間
会員一般投稿論文（著者負担20%, JpGU支援80%）
非会員一般投稿論文（著者負担100%, JpGU支援0%）

PEPS Authorship Guidelines.

1. Authors' Responsibilities.

- Everyone who is listed as an author should have made a substantial, direct, intellectual contribution to the work. Substantial contributions include contributions to the conception, design and execution of experiments and simulations; and to the modeling, analysis and/or interpretation of data.
- The authors should decide the order of authorship together. This decision should be made once a general outline of the research project has been agreed upon by the team members.
- Everyone who has made a substantial intellectual contribution to the work should be an author. Everyone who has made any other important contribution (including acquisition of research funding) should be properly acknowledged.
- All authors should participate in writing the manuscript by reviewing drafts and approving the final version.
- The first author should take primary responsibility for the work as a whole even if he or she does not have an in-depth understanding of every part of the work.
- The first author should assure that all authors meet the standards for authorship which are outlined here.
- If the corresponding author differs from the first author, all authors together should decide who the corresponding author will be.
- All authors should both agree upon and be responsible for the final text.

2. Inappropriate Authors.

- Order of authorship should be based upon the degree of intellectual contribution to the work: orders based on seniority or any other factors without bearing on the research project are not acceptable.
- Honorary or guest authorship is not acceptable. Acquisition of funding, while often essential to the work, is not in itself a sufficient contribution to justify authorship.

トムソン・ロイター ジャパン訪問報告

8月上旬のトムソン・ロイターへのIF採録申請提出に伴い、8/23にトムソン・ロイター ジャパンを訪問した。

1)前回からの変更点:

前回5/20の打ち合わせの際には、「新たに採録申請は不要で、ESCIからのUpgradを待てばよいとのスタンスでいたが」、

「今回は、PEPSの出版数、引用数などを少し調べた様子で、状況を理解しており、トムソン・ロイターJPでも引き続き審査状況をモニターする」との申し出がありました。

2)現状を確認:

トムソン・ロイターJPにてPEPSの登録内容を確認。出版頻度が「irregular」として登録されているのが印象が良くないので、基本的に毎月数本出版されていることから「by week」の表現を検討するとのことで、川幡先生判断で修正を依頼しました。

3)ヘッド・オフィス訪問に関して:

日本からも訪問しているジャーナルが何件かあるとの事で、訪問の方向でヘッドオフィスにコンタクトを依頼しました。(コンタクト・パーソンの連絡先入手済)

4)補足事項:

買収に関しては、日本オフィスもメンバーも異動はなく、おそらく社名変更になる見通しで、引き続きサポートも継続との説明がありました。

日本学術振興会 JSPS 平成 29 年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
(研究成果公開促進費)の公募に関する個別相談会参加報告

9/5(月)11:30～表記会合が開催され、

★連合より PEPS 出版の背景・体制と取組について説明

(組織)

- ・発行元 JpGU は 50 学会加盟、1 万人、4 千人発表、8 千人の参加
- ・学会=年会+ジャーナル

(PEPS 第 1 期の活動概要)

- ・PEPS 創刊: Open Access E-journal, IF>2.5 めざす(この分野だと上位 10%にはいる)
- ・創刊から 2 年なので Thomson Reuter, SCOPUS への登録申請、現在、Emerging Source Citation Index にはいっている。
- ・Review 目標 20%(実績は 30%)、
- ・良質論文の促進: 年間セッションコンビーナーの推薦の論文
- ・現在日本人が外国の一流誌(例、Elsevier など)に投稿論文の 20%を誘致したい(日本の既存ジャーナルとの重複を避ける)

(PEPS 第 2 期の活動目標)

- ・時期: ①IF=3 まで上げる、②Data Publication を積極的に出版、③よい IF について、海外からの投稿の促進

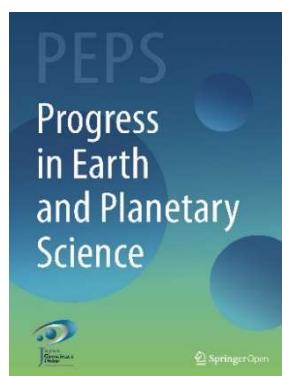
★JSPS からは、中間評価の通り良い成果をあげつつあるので、引き続きの活動に期待するとのコメントがあった。

	2014				2015				2016				Total			
	Review	Reseach	Methodology	Total	Review	Reseach	Methodology /Debate	Total	Review	Reseach	Methodology /Debate/Prefac	Total	Review	Reseach	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	2	1	0	3	6	5	0	11	2	1	0	3	10	7	0	17
	8.0%	4.0%	0.0%	12.0%	13.0%	10.9%	0.0%	23.9%	8.3%	4.2%	0.0%	12.5%	10.5%	7.4%	0.0%	17.9%
2. Atmospheric and hydroospheric sciences	2	5	0	7	2	3	0	5	1	2	0	3	5	10	0	15
	8.0%	20.0%	0.0%	28.0%	4.3%	6.5%	0.0%	10.9%	4.2%	8.3%	0.0%	12.5%	5.3%	10.5%	0.0%	15.8%
3. Human geosciences	0	2	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	4	0	4
	0.0%	8.0%	0.0%	8.0%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	4.2%
4. Solid earth sciences	2	9	0	11	4	16	0	20	3	6	2	11	9	31	2	42
	8.0%	36.0%	0.0%	44.0%	8.7%	34.8%	0.0%	43.5%	12.5%	25.0%	8.3%	45.8%	9.5%	32.6%	2.1%	44.2%
5. Biogeosciences	1	0	0	1	1	3	0	4	0	2	0	2	2	5	0	7
	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%	2.2%	6.5%	0.0%	8.7%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	2.1%	5.3%	0.0%	7.4%
6. Interdisciplinary research	0	1	0	1	2	2	0	4	3	1	1	5	5	4	1	10
	0.0%	4.0%	0.0%	4.0%	4.3%	4.3%	0.0%	8.7%	12.5%	4.2%	4.2%	20.8%	5.3%	4.2%	1.1%	10.5%
Subtotal	7	18	0	25	15	31	0	46	9	12	3	24	31	61	3	95
	28.0%	72.0%	0.0%	100%	32.6%	67.4%	0.0%	100%	37.5%	50.0%	12.5%	100%	32.6%	64.2%	3.2%	100%
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
Total				29				46				25				100

	~2014				2015				2016				Total			
	Review	Reseach	Methodology	Total	Review	Reseach	Methodology /Debate	Total	Review	Reseach	Methodology /Debate/Prefac	Total	Review	Reseach	Methodology /Debate	Total
1. Space and planetary sciences	8	9	0	17	3	8	1	12	1	5	0	6	12	22	1	35
	11.9%	13.4%	0.0%	25.4%	4.1%	10.8%	1.4%	16.2%	2.3%	11.6%	0.0%	14.0%	6.5%	12.0%	0.5%	19.0%
2. Atmospheric and hydroospheric sciences	5	7	0	12	3	8	0	11	0	9	0	9	8	24	0	32
	7.5%	10.4%	0.0%	17.9%	4.1%	10.8%	0.0%	14.9%	0.0%	20.9%	0.0%	20.9%	4.3%	13.0%	0.0%	17.4%
3. Human geosciences	1	4	0	5	0	4	0	4	0	5	0	5	1	13	0	14
	1.5%	6.0%	0.0%	7.5%	0.0%	5.4%	0.0%	5.4%	0.0%	11.6%	0.0%	11.6%	0.5%	7.1%	0.0%	7.6%
4. Solid earth sciences	3	17	1	21	10	23	2	35	1	15	1	17	14	55	4	73
	4.5%	25.4%	1.5%	31.3%	13.5%	31.1%	2.7%	47.3%	2.3%	34.9%	2.3%	39.5%	7.6%	29.9%	2.2%	39.7%
5. Biogeosciences	2	3	0	5	0	3	0	3	0	2	0	2	2	8	0	10
	3.0%	4.5%	0.0%	7.5%	0.0%	4.1%	0.0%	4.1%	0.0%	4.7%	0.0%	4.7%	1.1%	4.3%	0.0%	5.4%
6. Interdisciplinary research	2	5	0	7	5	4	0	9	0	3	1	4	7	12	1	20
	3.0%	7.5%	0.0%	10.4%	6.8%	5.4%	0.0%	12.2%	0.0%	7.0%	2.3%	9.3%	3.8%	6.5%	0.5%	10.9%
Subtotal	21	45	1	67	21	50	3	74	2	39	2	43	44	134	6	184
	31.3%	67.2%	1.5%	100%	28.4%	67.6%	4.1%	100%	4.7%	90.7%	4.7%	100%	23.9%	72.8%	3.3%	100%
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	0	-	-	-	4
Total				71				75				43				189

	(2016/9/20 現在)					
	Review	Reseach	Methodology /Debate /Preface	Subtotal	Editorial + Correction	Total
Published	31	61	3	95	5	100
	16.8%	33.2%	1.6%	51.6%	-	-
Accepted including Provisionally-accepted	1	8	0	9	0	9
	0.5%	4.3%	0.0%	4.9%	-	-
Under review	0	20	0	20	0	20
	0.0%	10.9%	0.0%	10.9%	-	-
Rejected/Withdrawn	11	46	3	60	0	60
	6.0%	25.0%	1.6%	32.6%	-	-
Total	43	135	6	184	5	189
	23.4%	73.4%	3.3%	100.0%	-	-

2017 年連合大会(JpGU-AGU Joint Meeting 2017) JpGU ジャーナル(PEPS)特別セッション募集のお知らせ



JpGU では、海外情報発信への取り組みとして、英文電子ジャーナル “Progress in Earth and Planetary Science”(PEPS)を 2014 年 4 月に創刊しました。ジャーナル企画経営委員会では、この活動の一環として、2014 年連合大会より、「PEPS 特別セッションの企画」を募集・実行してまいりました。2017 年連合大会は JpGU-AGU Joint Meeting となりますので、PEPS の振興も含めて、広くセッションを募集いたします。PEPS 特別セッションに参加する海外からの発表者に対しては、旅費の援助を行います。援助の条件は「海外からの招聘者を含む 4 件程度の講演内容を、JpGU ジャーナル PEPS に論文として投稿していただくことです。この投稿件数には、コンビーナや招待講演者等、日本から大会に参加するセッション代表者の投稿を含みます。これにより、大会での有意義なセッションの開催とともに、PEPS へ質の高い論文を投稿いただけることを期待いたします。

2017 年連合大会でコンビーナとしてセッション提案をご計画の方はぜひ、ご検討下さい。

★応募条件

- ・2017 年連合大会(JpGU-AGU Joint Meeting 2017)で開催される EE/EJ セッション(英語発表セッション)
- ・2017 年連合大会後半年以内を目処に、セッションでの発表内容に基づく論文を 4 編程度、“Progress in Earth and Planetary Science”(PEPS)へ投稿していただけすること
* 招聘者には事前に PEPS への投稿の同意をいただいてください
<http://progearthplanetsci.springeropen.com/>
- ・1 セッションにつき 2 名程度の参加者の旅費を支援いたします(海外からの参加者に限ります)

★提出書類(自由フォーマット)

- ・2017 年連合大会セッション提案番号:
- ・予定するセッションの提案内容を記した書類
(提案内容は、ジャーナル企画経営委員会で審議いたしますので、アピールする事項を的確に記載願います。
また、可能であれば、別途、セッション内容の詳細な説明を記した書類を添付してください。)
- ・予算要求書(被招聘予定者: 所属、飛行機代、滞在費等)
- ・投稿を予定する著者、発表者、所属、メールアドレス、題目などの一覧

★提出先・問い合わせ先

日本地球惑星科学連合 ジャーナル出版部 PEPS 事務局(peps_edit@jgu.org)

★募集期間

2016 年 9 月 1 日～2016 年 10 月 15 日

※提案の可否は、論文出版実績等を考慮して審議し、否決に関しては、10 月末を目途に回答いたします。

※本申請と共に、2017 年連合大会のセッション提案も別途行って下さい。

<https://www.member-jgu.org/proposal/>

※特別セッションをベースとした開放型特集号 SPEPS(Special call for Excellent Papers on hot topicS)の企画提案も募集いたします。

【SPEPS 論文集】http://progearthplanetsci.org/articles_on_speps_j.html

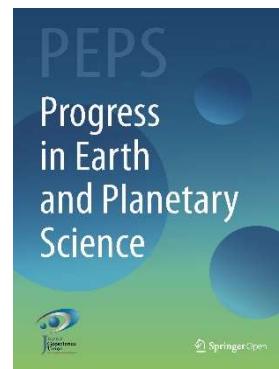
Special Sessions contributing to JpGU journal PEPS are wanted for JpGU-AGU Joint Meeting 2017

We, Journal Planning Committee is to accept applications for PEPS Special Sessions as a part of global communication enhancement.

Financial support for accommodation and transportation are to be provided to the participants from abroad who make presentations at the PEPS Special Sessions.

Several participants in a session including these invited presenters from abroad, conveners, and other Japanese presenters are required to submit their manuscripts to our open access journal PEPS (Progress in Earth and Planetary Science) on the basis of their presentations. They are expected to submit their manuscripts within 6 months after the JpGU-AGU Joint Meeting 2017.

This preferential treatment will not only implement fruitful sessions in the JpGU-AGU Joint Meeting 2017 but also improve the high level of PEPS quality.



*** Requirements for proposing PEPS Special Sessions:**

- The session must be held at JpGU-AGU Joint Meeting 2017.
- Several manuscripts based on the session presentations have to be submitted to PEPS within 6 months after the session. (The proponents shall obtain the relevant authors' agreement in advance regarding this requirement.)
<http://progearthplanetsci.springeropen.com/>
- Financial support to utmost two participants from abroad are available per session.

*** Please provide the following information (No specific format is required):**

- Proposal No. of JpGU-AGU Joint Meeting 2017
- A document outlining the contents of your proposed session
(Our Steering and Planning Committee will discuss your proposal so it would be useful if you would indicate aspects of your session that will most appeal to us. If possible, please provide a separate document providing a detailed description of the session.)
- A written request detailing the budget necessary to hold your proposed session.
- A list of presenters and authors including their proposed topics, titles, affiliations and e-mail addresses.

*** Where to submit**

PEPS Editorial Office, Japan Geoscience Union <peps_edit@jgu.org>

*** Deadline:** 15th October, 2016 at 17:00 JST

- * The Journal Planning Committee will examine every proposal for the PEPS Special Sessions whether or not to approve its request for financial support based on the number of published articles of the proponent and presenters to be invited. We will inform the proponent if the proposal is rejected by the end of October 2016.
- * In addition to your PEPS Special Session proposal to PEPS Editorial Office, please also perform an ordinary proposal procedure for the session on JpGU-AGU Joint Meeting 2017.
<https://www.member-jgu.org/proposal/>

2016/09/30 第4回理事会
Board of Directors meeting #4

JpGU2017年大会準備タスクフォース 理事会報告(案) 末廣 潔(TFヘッド)
Report to Board of Directors K. Suyehiro (JpGU Task Force for 2017 Meeting)

前回第3回理事会(07/14/2016)以降の活動(since 07/14/16)

カレンダー(TF関連)

07/25-26 AGUとの会合(ワシントン本部)

09/01 セッション提案開始

09/14 AGUとの会合(ワシントン本部)

今後

10/13 セッション提案締め切り

10/18~ Program Com. Electronic exchange

10/21 Program Com.準備会議(東京)

~10/27 Program Com. Electronic exchange

10/28~11/6 Conveners' feedback

11/10-12 Program Com.編成会議(幕張)

12/12-16 AGU Fall Meeting(サンフランシスコ)

2017/1/6~2/16 投稿受付期間

1: AGUとの擦り合わせ(Coordination with AGU)

- セッション提案のAGUからの入力:順調。
- セッション提案のAGU側からの促進:連携中。
- ジョイントプログラム委員会:活動開始。
- AGU側基調講演:全米科学アカデミー会長(Marcia McNutt)交渉中。
- イベント企画進行中:
Lunch Time Special Lectures; 連携中。
Students Travel Support: 国際はAGU担当;国内はJpGU担当。AGU補助15K.
Students Presentation Awards: JpGU方式にAGUメンバーレフェリー参加。
○ AGU側としてAGU Leadership Dinnerを企画。曜日連携中。
- 次回直接交渉は10/26-28に設定可能(末廣)。
- AGUへの期待値:>5000発表数(大会運営委員会からの採算ライン)。

2: 国際化の方針の具現 Implementation of the internationalization policy

- 2018年以降の引き継ぎ。AGUとの今後の協力様式の検討必要。

構成メンバー(7名):

末廣潔(TFヘッド・事務局・GSC)、近藤康久(情報システム)、高橋幸弘(広報普及)、西山忠男(2016プログラム委員長)、三宅弘恵(GSC)、Liu HuiXin(2017プログラム委員長)、小谷亜由美(大会運営委)

Y Kondo, A, Kotani, H Liu, H Miyake, T Nishiyama, K Suyehiro, Y Takahashi

アドバイソリーメンバー(6名)

北和之(財務委員長・理事)、木村学(GSC委員長・理事)、島津浩哲(大会システム)、浜野洋三(大会運営委員長・理事・事務局長)、古村孝志(総務委員長・理事)、村山泰啓(情報システム委員長)

T Furumura, Y Hamano, G Kimura, K Kita, Y Murayama, H Shimazu

2017年プログラム関係スケジュール

□ :投稿者、コンビーナ ■ :プログラム委員会	
□ セッション提案	2016年9月1日(木)～10月13日(木) 17:00
□ セッション提案(予備期間)	2016年10月13日(木) 17:00～10月17日(月) 15:00
■ プログラム委員会メール審議	2016年10月18日(火)～10月27日(木) 17:00 ※セッション統合・不採択、配分コマ数、セッションID、ユニオン・パブリック採択 確定
■ セッション採択検討会議	2016年10月21日(金)
□ セッション追加入力	2016年10月28日(金) 10:00～11月7日(月) 10:00 ※重複回避希望、連続開催希望、開催不可日の申請を受け付ける
■ セッション情報まとめ・Gptool準備	2016年11月7日(月) ※7日中にセクションへGptool配布
■ プログラム編成会議	2016年11月10日(木)～11月12日(土) ※コマ割確定
■ コマ割公開	2016年11月14日(月)
□ 投稿受付	2017年1月6日(金) 10:00～2月16日(木) 17:00 ※早期締切 2月3日12:00
□ 投稿内容確認	2017年2月16日(金) 19:00～2月23日 17:00 ※採択・セッション移動の確定
■ コマ数確定	2017年2月24日(金) ※投稿数結果の過不足による調整
□ コンビーナによるプログラム編成	2017年2月24日(金) 19:00～3月2日(木) 17:00
□ 採択結果本人通知	2017年3月8日(水)
□ プログラム一般公開	2017年3月10日(金)
□ PDF公開	2017年5月11日(木)

第10回国際地学オリンピック日本大会報告

概要

第10回国際地学オリンピック日本大会が、8月20日から27日まで、三重県津市の三重大学を主会場として開催されました。26ヶ国・地域（オーストラリア、オーストリア、バングラデッシュ、ブラジル、カンボジア、台湾、チェコ、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、イタリア、日本、カザフスタン、マラウイ、ノルウェー、中国、ポルトガル、韓国、ルーマニア、ロシア、スペイン、スリランカ、タイ、ウクライナ、アメリカ）から100人の選手と10名のゲスト生徒が参加しました。26ヶ国・地域は過去最高のイタリア大会と同じで、チェコと中国が初参加でした。当初は31ヶ国・地域の申し込みがありましたが、イスラエル、ノルウェー、ナイジェリアが参加を取りやめ、直前になってトルクメニスタンが参加を中止しました。

日本チームは3月の日本代表最終選抜で選ばれた4名（3名の高3と1名の高2）とゲスト生徒5名（代表選抜に残った3名と三重県代表2名：全員高3）、メンター2名、オブザーバー5名の体制で望み、成績は金メダル3個、銀メダル1個の過去最高の成績でした。メダル数から推定した順位は台湾（金4）につぐ2位でした。なお、3位は韓国（金2、銀2）、4位はスペイン（金1、銀1、銅1）また、ゲスト生徒の成績も金メダル相当1名、銀メダル相当2名、銅メダル相当2名のとても優秀な成績でした。なお、金メダルを獲得した生徒の1名は今年の化学オリンピックでも金メダルを獲得した生徒でした。

スケジュール等

20日：各国選手到着

21日午前：開会式（三重大学の三翠ホール）

水落文部科学副大臣や鈴木三重県知事も出席され、三重県の高校生実行委員会の協力のもと、盛大に行われました。JpGUからは濱野理事が出席しました。

21日午後：生徒は伊賀上野の忍者博物館を三重県生徒実行委員会とともに訪問し忍者ショーを楽しみました。メンターは国際地学オリンピック作問委員会が作成した英語の筆記試験の内容を検討し、夜から各国語への翻訳。

22日：生徒は伊勢神宮見学を宇治山田商業高校の生徒の案内で行う。メンターは筆記試験の翻訳と同時に、三重大の先生方が作成した実技試験の検討・翻訳。

23日：120分と90分の筆記試験が三重大学にて行われました。JpGUの教育検討委員会教育課程小委員会の高校地学の先生方は三重大の学生の協力で試験監督を行った後、採点にご協力いただきました。試験後は三重県総合博物館の見学を行いました。

24日：三重大学の先生方や三重大学生の協力のもと、5種類の実技試験（2種類の地質野外、三重大での天文、エネルギー、気象）が行われました。メンターは午前中は伊勢神宮、午後は伊賀上野の忍者博物館見学。

25日：三重県南部の熊野市での国際協力野外調査（ITFI：各国の生徒がバラバラのチームを作り、野外調査をする）が行われ、メンターもその様子を見学。

26日：午前中は生徒はITFIのまとめ。午後はITFIの発表。夜はさよならパーティー。

27日午前：閉会式。JpGUからは川幡会長が出席しました。

9月5日に前川文部科学事務次官を表敬訪問し、メダルを受賞した全員が大臣表彰されました。

皆さまのご協力のもと、無事日本大会を終了いたしました。そのことをご報告するとともに厚く御礼申し上げます。なお、来年はフランスのコート・ダジュール、2018年はタイ、2019年は韓国での開催が決まっています。

経理につきましては現在まとめている最中ですが、赤字にはならないようです。会計報告は後日いたします。

第1回防災推進国民大会出展報告

会期：平成8月27日（土）・28日（日）

会場：東京大学本郷キャンパス

主催：防災推進国民大会実行委員会（内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）

参加費：無料

出展料：無料

来場者数（主催者発表）：27日約7,000人、28日約5,000人、合計約12,000人

経緯：防災学術連携体を通じて情報があり、高橋幸弘連絡委員と環境災害対応委員会幹部が連携して参加申請し、準備に当たった。

レポート：

80団体程度の企画・ポスター、等の出展がある中、JpGUはポスター展示として活動の紹介や連合そのものの紹介、環境災害対応委員会の取り組みの紹介を行った。

ファミリー層、学校のグループで参加している学生、シニア層を含む一般参加者が主な参加者だったため、学術セッションや投稿の宣伝よりは、連合の紹介、大会パブリックセッションの紹介を重点的に行った。パンフレット、JGL、ノベルティ（ロゴ入りブックマーク、ペン等）、2日間合わせて各200程度は配布した。

JpGUの名前を知らない一般の参加者にも、内容や連合大会を紹介すると高い関心を示されることが多く、パブリックセッションへの興味も感じられた。イベントの性質上、防災や災害対応についての生活レベルの情報を求めている方が多いため、うまくアピールしきれなかった部分もあるが、むしろ災害対応関連をメインに打ち出さず、それを含めて連合の一般向けの部分を紹介するブースにできれば、もっと効果的にアピールできるように感じた。

当日のJpGUブース



報告：事務局 杉村洋平

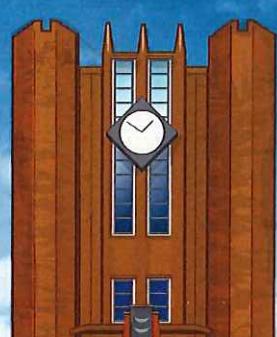
ぼうさいこくたい 第1回防災推進国民大会

大規模災害への備え～過去に学び未来を拓く～

災害や災害への備えについて、大人からお子様まで、ご家族みなさまで楽しく学んでいただけるイベントです



日本学会議・防災学術連携体
「52学会の結集による
防災への挑戦」
＝熊本地震における取組み＝



全効済
「Dr.ナダレシジャーの
防災科学実験ショー」



国土防災技術株式会社
「防災教材EVAGで
避難行動体験」



夏休みの宿題にも
使えるかも?!



防災ジオラマ推進ネットワーク
「みんなで作ろう!
段ボールジオラマ」



平成28年

8月27日土・28日日

10:00~17:00

10:00~15:00(一部16:30)

東京大学本郷キャンパス

(安田講堂/山上会館/小柴ホール/理学部棟)

会場マップ



参 加 無 料

お好きな時間に、お好きな催しに、ご自由にご参加ください!
(一部事前申込必要)

詳しくは公式ホームページで <http://bosai-kokutai.jp>

ぼうさいこくたい

検索

お問い合わせ

「第1回防災推進国民大会」運営事務局
(株式会社ファンテック内)

TEL: 03-5545-9191



主催: 第1回防災推進国民大会実行委員会 (内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議)

出展内容は予告なく変更になる場合があります。

第1回 防災推進国民大会

日 時… 平成28年8月28日(日) 10時～12時
会 場… 東京大学 安田講堂 大会場

安田講堂回廊のポスター・セッション
「日本学術会議・防災学術連携体の活動」を展示予定

第1回 防災学術連携シンポジウム

52学会の結集による防災への挑戦 - 熊本地震における取組み -

主 催：防災学術連携体(52学会)
日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会

趣旨：本シンポジウムでは、熊本地震における現象、被災状況等を解説するとともに、その取り組みから、防災に関わる先端的技術・研究の一部を、一般市民を対象として分かりやすくビジュアルで紹介する。また、日本学術会議や各学会が勢揃いして、防災学術連携体の紹介と学会連携で日本の防災力を高めていくことを宣言する。

プログラム

司会 防災学術連携体事務局長 塚田幸広(土木学会専務理事)

挨拶 日本学術会議会長 大西 隆 (10:00～)

防災学術連携体代表幹事 和田 章

(日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員長)

防災学術連携体の概要紹介 (10:06～)

防災学術連携体事務局長 米田 雅子(日本学術会議会員)

熊本地震における学会の取組み (10:16～ 発表 各6分)

○ 地震の観測と現象解明

日本地球惑星科学連合 高橋 幸弘

日本地震学会 山岡 耕春

日本活断層学会 宇根 寛

日本応用地質学会 井口 隆

○ 地震による被災状況と対策

日本建築学会 松村 秀一

地盤工学会 古屋 弘

日本地すべり学会 落合 博貴

砂防学会 石川 芳治

日本火災学会 廣井 悠

○ 情報提供・避難

日本地震工学会 目黒 公郎

地域安全学会 石川 永子

地理情報システム学会 吉川 耕司

日本団体災害医学会 近藤 久禎

○ 震災後の対応から復旧・復興

廃棄物資源循環学会 森口 祐一

日本計画行政学会 山本 佳世子

防災・減災への防災学術連携体参加学会からのメッセージ (11:40～)

上記学会および、日本古生物学会、横幹連合、日本火山学会、日本ロボット学会、

日本救急医学会、日本災害復興学会などの代表が登壇の予定

日本学術会議の代表

防災学術連携体代表幹事 廣瀬典昭(土木学会前会長)

閉会の言葉 (11:57～)

防災学術連携体副代表幹事 依田照彦(日本学術会議会員)



参加費：無 料(参加申込み不要)

発表資料は防災学術連携体ホームページに掲載 <http://janet-dr.com/> ※会場での資料配布はありません。

問合せ先：防災学術連携体 菅原健介(土木学会) sugawara@jsce.or.jp 03-3355-3443／小野口弘美 info@janet-dr.com